

第5回 岐阜市未来のまちづくり構想改定に向けた有識者ヒアリング（分野横断的視点） 意見交換の要旨（R7. 11. 14 開催）

1 岐阜市の魅力と課題

- 岐阜県の特徴を地域として捉えると北と南で大きく分かれる。岐阜県の北部は地理的特性によるユニークさが観光資源となり、ブランディングが成功している。一方で岐阜県の南側、特に岐阜市は名古屋からのアクセスが良いことで、人々が名古屋に流出し、市内に賑わいを作ることが難しい状況になっていると思う。
- 岐阜市の名古屋からのアクセスの良さはメリットでもデメリットでもある。
- 多くの地方都市と同様、バイパス沿いの風景が全国一律化し、地域固有の歴史や文化と紐づいた価値が失われつつある。結果、都市化の流れに吸い込まれてしまった。
- 過疎化、高齢化はある種、まちに余白が生まれることにもなる。また食文化を目当てに観光するインバウンド観光客も増加してきた。
- 岐阜市の可能性は決して低くはなく、金華山、長良川など、食と相性の良い資源が岐阜市には豊富にある。
- 岐阜市は自然の価値も活かせるし、文化歴史もある。だからこそ全国の成功事例を適宜取り込めると思う。

2 地域ブランディングと岐阜市の可能性

- 従来の日本文化は海外から見ると東山文化（侘び寂び）が主に認識されており、中部圏の安土桃山文化は400年間軽視されてきた。織田信長が体現した安土桃山文化（楽市楽座）がもつ「包摂性」「開放性」「多様性」を日本の文化として再定義し、現代において再解釈する価値がある。
- 岐阜市の歴史的な積み重ねを源流として、芸術や食といった新しい文化が紐づく自然を感じる体験のようなコンテンツが立ち上がってくると、1つのブランディングとしてもちゃんと筋が通るのではないかと。「響清楽座」というコンセプト（響き合い、清流の清らかさ、誰もが集える楽座）を考えた。
- 地域のブランディングにおいては一貫した軸を通し、シグネチャーとなる体験を作ることが重要である。直島の地中美術館のように、「ここに来なければ体験できない」価値を創出することが必要。その観点では、みんなの森 ぎふメディアコスモスは建築家 伊東豊雄さんの最高傑作であり、もっと価値を高められる可能性がある。
- 直島やニセコの成功事例から見ると、地域の変革には民間と行政の両方の役割が重要。最初は「うつけ（常識外れ）」と思われるような尖った人材による挑戦が必要だが、そうした民間の動きに対して行政がどのタイミングでどう手を差し伸べるかが重要である。

3 良い問いを立てることの重要性

- 現代は正解・答えを見に行く時代ではなく、問いを立てる時代である。良い問いを立てるために必要なことは、問いを立て続けることそのものである。
- 問いを立てる力は従来「センス」の有無と片付けられてきたが、ファッションセンスを磨くのと同様に実際には磨くことができる。問い続け、他者とのフィードバックの中で、考え続けることが必要である。
- 問いを立てることは、地域の商店街活性化やお祭りへの参加方法など、身近な課題解決にも直結している。
- 問いを立てることを学ぶために初等教育においては重要となるのは、対話型アート鑑賞のように答えがないものと向き合い、他者とコミュニケーションを取り続ける経験を積むことである。

4 AI 時代における非効率的要素の重要性

- AI 時代における非効率的要素の重要性を考えるにあたり、AI にこの問いを投げかけると、「人間の役割は非効率的なことしか残りません」、「効率という言葉で問いが狭められた時点で、効率化できる業務という役割は人から AI へと移行していく」と回答があった。
- 技術革新による仕事の代替は産業革命の時にもあり、「人間の仕事は 95%なくなる」と言われたが、この予測は半分正しく半分間違いだった。効率化された仕事がなくなる一方で、新しい価値が生まれる余地が生まれた。
- 現在の生成 AI の時代にも同様のことが起こり、現在の仕事の 95%はなくなるが、効率化でできた時間で新しい価値を生み出すのが人間の役割になる。
- 内閣府が提唱する未来社会の姿である Society 5.0 では「多様な価値を具体的にどう実現するか」が問われる。2025 年日本国際博覧会においてはこの多様な価値の追求が実現しており、多様な価値の実現に人間がコミットするという動きがあった。
- 価値を感じるという行為は AI にはできない。AI には感情や体験を受け取るレセプター（受容体）がないため、人間のような価値判断はできない。

5 2040 年の地方都市像と岐阜市の方向性

- 「どんな未来に自分はコミットするのか」という視点が重要と考える。未来を予測する最も効率的な方法は、私たち自身が自分で未来を作ることではないか。
- 岐阜市民や行政は岐阜市がどんな場所になっていきたいのかを議論する必要がある。直島のように一人の行動から広がる場合もあれば、下北沢のように住民参加型で価値を上げる場合もある。
- 織田信長の理念を大事にして、安土桃山文化の思想（国際性豊か、包摂的、誰にも開かれた場所）を現代に活かすことが織田信長の拠点であった歴史を持つ岐阜市には適している。
- 「包摂性」「誰も取り残さない」という温かさと、長良川のような清らかな場所という岐阜市のブランディングが重要である。
- 最大多様の最大幸福、誰一人取り残さないという理念と繋がる場所や体験を作ることが大切。

6 自治体職員に求められる能力と役割

- 行政における標準化される業務はどんどん縮小していく。生成 AI の登場で効率化は避けられない。効率化した先に人を減らすのではなく、新しい仕事生まれる。
- 市民に寄り添うことが自治体職員の仕事の本質である。
- 行政は従来「最大多数の最大幸福」しか追求できなかったが、AI による効率化の先に「最大多様の幸福」を追求する余地が生まれる。
- 図書館のように、デジタル化で本へのアクセス提供という従来の役割は減っても、地域の人々の記憶を集めて共有するなど、新しい役割が生まれることがある。
- 既存業務の効率化への適応と、市民に寄り添うという価値の再定義が重要。これは教育やビジネスでも同様の課題があるといえる。

(以上)